

令和3年度病虫害発生予察情報 注意報 第3号

令和3年6月25日
岩手県病虫害防除所

ネギハモグリバエ、ネギアザミウマが全県的に多発しています。 圃場をよく観察し、直ちに防除しましょう。

- 1 対象作物、病虫害 : ねぎ、ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期(感染時期) : -
- 4 発生量 : 多
- 5 予報の根拠

- (1) ネギハモグリバエは、6月下旬の巡回調査では発生圃場率、被害度ともに平年より高く、多発年と同様に被害が急増している(図1、2)
- (2) ネギアザミウマは、6月下旬の巡回調査では発生圃場率、被害度ともに平年より高く、多発年と同様に推移している(図3、4)。

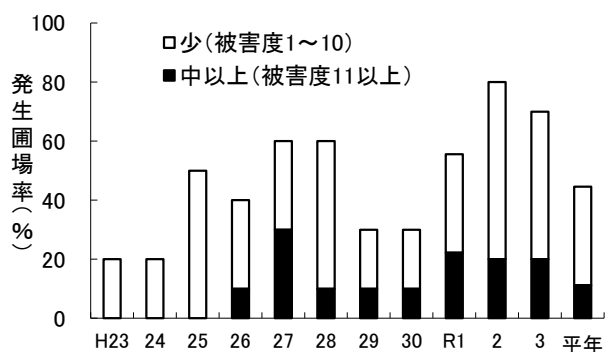


図1 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次別推移(6月下旬)

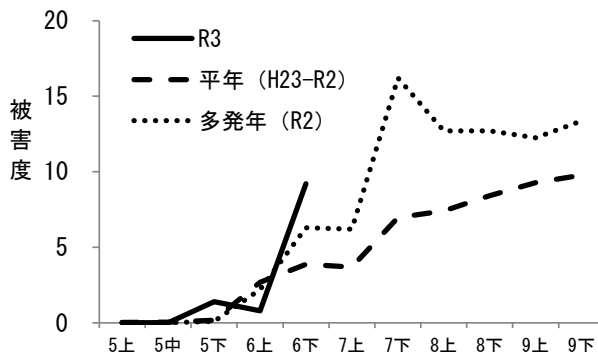


図2 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

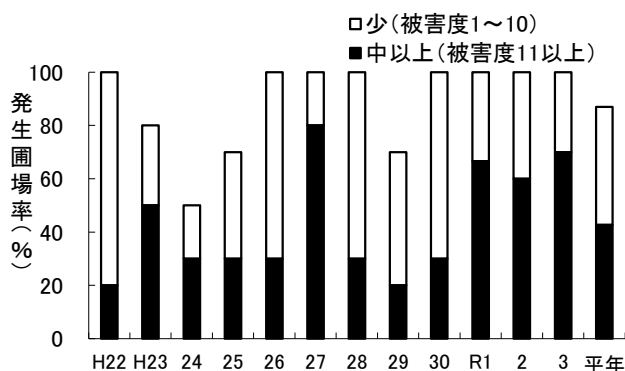


図3 ネギアザミウマの発生圃場率の年次別推移(6月下旬)

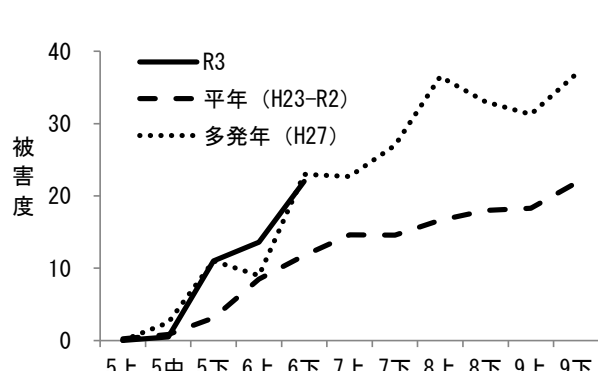


図4 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

6 被害の特徴

【ネギハモグリバエ】

- (1) 幼虫が葉肉内に侵入後、移動しながら食害し、葉に白いすじ状の食害痕が生じる。多発すると葉の大部分が真っ白になり、生育が著しく妨げられる(図5)。

【ネギアザミウマ】

- (1) 吸汁により白いかすり状の斑紋を生じる(図6左)。
- (2) 多発すると株全体が白っぽくなり(図6右)、放置すると下位葉や中位葉が枯死する。



図5 ネギハモグリバエによる被害葉
左：A系統、右：B系統

(左：「いわての農作物病害虫図鑑」より抜粋)



図6 ネギアザミウマによる被害葉
左：被害程度【中】、右：被害程度【甚】

7 防除対策

【共通事項】

- (1) 被害が見られる圃場では、下表を参考に、適用のある薬剤で直ちに防除する。
- (2) 茎葉散布は散布ムラが生じないように畝の両側から丁寧に行う。
- (3) 発生源となる被害残渣や雑草等を圃場から持ち出して処分する。

【ネギハモグリバエ】

- (1) 発生が目立つ場合、ベネビアODやグレーシア乳剤で防除する。

【ネギアザミウマ】

- (1) 発生が目立つ場合、ベネビアODやグレーシア乳剤、ディアナSC、ファインセーブフロアブル、ハチハチ乳剤のいずれかの薬剤で防除する。
- (2) 高温条件下では世代の経過が早いため（25℃では16～17日程度で1世代経過）、散布間隔が空かないように散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、下表を参考に、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

表 ねぎのネギハモグリバエ・ネギアザミウマに適用のある農薬

薬剤名	系統名	農薬分類 (IRAC)	適用	
			ネギハモグリバエ	ネギアザミウマ
ベネビアOD	ジアミド	28	○b	○*
グレーシア乳剤	その他	30	○	○*
ディアナSC	スピノシン	5	○	○*
ファインセーブフロアブル	その他	UN	○	○*
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	4A	○	○
プレバゾンフロアブル5	ジアミド	28	○b	
ハチハチ乳剤	その他	21A	○	○*
プレオフロアブル	その他	UN		○

b：ハモグリバエ類で適用、*：アザミウマ類で適用

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

- 本資料は、令和3年6月23日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
 - ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

